

北海道遺産
Hokkaido Heritage

北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第118号
(隔月刊)

発行：2024. 9.30

(令和6年9月30日)

発行人：中山 一夫 (理事長) 編集人：伊藤 悟 (副理事長)

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

TEL.FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

第42回文化サロndeピアソン

ボタニカルキャンドル作り講習会終了！

ロウの中に各種ドライフラワーやエッセンシャルオイルを入れ、点灯時には香りを楽しむことが出来るキャンドル作り。クリスマス時にはリースと組み合わせる飾りつけが可能。午前と午後の講習会に7組の参加がありました。

(伊藤/記)

9月23日、3連休最後の休日に、午前・午後と2回に分けキャンドル作りの講習会を開催しました。

3連休という事が影響したのか、例年では定員オーバーになる講習会も、今回は小人数での開催、午前の部には3組の参加、午後の部では4組の参加、合計で7組の参加でした。これが幸いしてか、増井講師を中心に、ピアソンハーブ部会指導員も十分なお手伝いできました。

遠くは釧路からわざわざ参加していただいた方もいましたが、受講者はゆったりとしたペースで、約1時間半の製作を楽しみ、好評の講習会となりました。

今回のキャンドル製作は、大小1本ずつ、計2本のキャンドルを製作しました。

キャンドル(ロウソク)の歴史は、紀元前の時代から各種資料で確認でき、百年ほど前の時代まで、



【写真】 午前の部での参加者、製作の様子。

【写真下】 溶かしたワックスを、各種香料配
置の容器の中に入れる作業。
【写真左】 隣人の製作を参考にしている様子。

ようか。

キャンドル(ロウソク)の原料は、原油からとれるパラフィンワックスを主原料としています。ワックスは、アイスクリーム・ヨーグルト・牛乳などの紙パック類、キャンディ・菓子・パンなどの包装紙、化粧品などに広く利用されている安全な材料です。

今回、パラフィンワックスを流し込むキャンドルの型枠は、小はヨーグルトの空き容器。大は綿棒の空き容器を使用しました。



芯となるロウソクを容器に入れ、その周りに各種香料やドライフラワーを配置し、気泡が入らないよう上から溶かしたパラフィンワックスを流し込んで固形化させます。使用する際には、型枠を取り除きます。数十時間香りと明かりを楽しむことができます。

【写真右】 各種香辛料
やドライフラワー。
【写真下】 出来上がった
た大小のキャンドル。

素敵な来館者たち！

スタッフ写真①

ピアノン夫妻の業績を最初に本として出版、ピアノン記念館保存、ピアノンの故郷エリザベス市と姉妹都市提携に尽力された故小池創造牧師（元北見教会）の四姉妹（長女と四女は他界）、次女美景さん（茨城県在住）と三女恵里子さん（ロスアンジェルズ在住）とその家族、また四女さやかさんのご主人と3人の子供達、が9月3日に来館されました。姉妹は幼少の頃、このピアノン邸に住んだこともあった、と懐かしい話を聞かせてくださいました。



スタッフ写真②



写真右から、玉置ピアノン会理事、石井元牧師、飯野牧師、田淵神戸女学院監事、角野ヴォーリス研究センター長

9月10日、北海道ケズイック・コンベンション前委員長であられた石井栄治元牧師が、北見聖ヤコブ教会飯野牧師の案内で来館されました。ちょうど関西学院大学の角野ヴォーリス研究センター長、神戸女学院田淵監事もおられ、一緒に記念撮影となりました。
ピアノン夫妻の活動は、超教派的活動として知られていて、北見ではお寺の住職さんとも一緒に奉仕活動をしていた事も伝えられています。記念館には色々な方々が来られます。

スタッフ写真③

9月15日、女性二人の来館者があり、ピアノン夫妻愛用のリードオルガンを愛おしそうに見ておられたので、「このオルガン、弾いていただいて良いですよ」と話す。ここで室内コンサートなど演奏会を開催していることも伝える。女性が弾き始めると、もう一人の女性はその様子をスマホ動画で撮影。「私、本当はフルートなんです」と演奏を止め、「ここでちょっとフルート吹いてもいいですか？」「ぜひ！」と、快諾しました。

女性は、安井マリさんというプロのアイリッシュ・フルート奏者でした。車から楽器を持ってきて「アメイジング・グレイス」を披露してください、帰られる時には、CDをプレゼントしてくださいました。「昨夜、演奏してきました」と話され、「機会があればここで」と。東京在住の演奏家さんですので、当会単独では叶いませませんが、本当に機会があれば……。



フルート演奏の安井マリさん



ピアノン夫妻の時代にリンゴの木はあったと伝えられています

今年もオニグルミが沢山実りました。エゾリスが食べにきます。今年の謎ですが、リンゴが実りました。今まで20数年リンゴの木があることさえ誰も気付きませんでした。老木？に見えますが……。



オニグルミを食べに来るリス

実りの秋



オニグルミ

ヴォーリス研究センター & 関西学院大学 VNW事務局 (神戸女学院) の3名来館

ピアソン会が所属している、「ヴォーリス建築文化全国ネットワーク」(略称「VNW」) 設立年は2007年)の会員仲間で、幹事役を務める関西学院大学ヴォーリス研究センター長(建築学部)の角野幸博名誉教授、建築学部准教授の谷口真紀さん、更に元関西学院大学院長で現在は神戸女学院(建物の多くがヴォーリス建築として国の重要文化財指定を受けています) 監事を努めながら、「VNW」の事務局を引き受けられている田淵結関西学院大学名誉教授、の3名が9月9日・10日の2日間、ピアソン記念館を訪問してくださいました。

も、「私も行きたいなあ」と。3名は、それぞれにお忙しい方たちですので、日程は北見の現地集合、またそれぞれの方法と時間で北見を去られる、という慌ただしい2日間でした。北見では中山理事長を中心に、教育委員会中原文化財課長の配慮による施設案内もいただき、限られた時間をできる限り北見という風土とピアソン夫妻の業績を理解していただけるようにと、案内に努めました。

今後、ヴォーリス建築所縁の「VNW」の仲間との交流を大切にしたいと考えています。

今年の「VNW」全国大会(総会)が、関西学院聖和キャンパス(前号ピアソン便り)で開催されましたが、その時に角野ヴォーリス研究センター長より、「ぜひピアソン記念館を訪問したい」との申し出を受けました。またその総会で『「アマチュア」教育者、ヴォーリスの教育設計』と題して講演された谷口准教授も、「私もピアソン記念館を見学したい!」との話になり、それを聞いていた田淵事務局



【写真】左から、中山ピアソン会理事長、谷口准教授、角野ヴォーリス研究センター長、田淵神戸女学院監事、真如文化財課係長。

オホーツク海沿岸の地域でハーブ栽培に積極的に取り組み、食品加工に活用している事業所などを視察し、ピアソン会ハーブ部会の活動の参考とする目的で今年も「ハーブとフードの活用研修旅行」を実施しました。

晴天の8月29日。まずは「遠軽町・北海道家庭学校」を訪問。同校は、キリスト教精神に基づいた民間感化院として、1914年に留岡幸助氏によって設立され、遠軽町郊外の丘陵地に広がる439ヘクタール(230万坪)の敷地には、礼拝堂・本館・体育館・特別教室棟・寮舎・博物館・給食棟・木工教室・牛舎・バター製造舎・味噌醸造場などがあり、国内の児童自立支援

ピアソン会ハーブ部会、日帰り研修旅行報告！ 「遠紋方面ハーブ探訪」

援施設としては珍しく、敷地内の施設は鉄格子や塀、柵などで閉鎖隔離しないことでも知られています。また同校設立の1914年は、ピアソン夫妻が野付牛村に転居して北見での伝道を始めた年でもあり、北光社、学田(遠軽)、佐呂間の3つの教会の援助に力を注いできたという歴史にも関わりの深い校内や礼拝堂を見学しました。

移動途中の「道の駅遠軽森のオホーツク」では家庭学校バターなど購入。その後、遠軽雄武線を走りめざすは「滝上町・香りの里ハーブガーデン」へ。ひと山まるごとハーブのお花畑その種類の多さに感動



家庭学校礼拝堂の前



仲良く楽しい研修でした

たてのピッツアやハーブパンの味わいはまた格別で、オホーツクは「食材の宝庫」と実感する研修となりました。(S・C)

第43回文化サロン de ピアソン クリスマスリース作り講習会

- ◎ 開催日時: 2024年11月17日(日)午前の部(10時~12時10名)・午後の部(13時~15時10名)
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館2階
- ◎ 講師 : 増井五夜子氏ほかピアソン会ハーブ部会員
- ◎ 予約チケット : 材料費として1,500円。(11月1日よりピアソン会にて予約受付、電話可)。
- ◎ 問い合わせ : NPO 法人ピアソン会 (電話 0157-31-1215) ピアソン記念館 ☎ 23-2546



「ニュージーランドからの便り」第47回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2024・7・31(水)

ファンガヌイから

こんにちは

◆先週金曜日に南下し、ここにあります。時々雨が降り、涼しく、風景の変化を楽しんでいます。滞在主目的の果樹の手入れが終わりました。プラムの木には一つ二つ花が見えます。

◆先日従兄のステイヴが彼のバギーで農場回りに連れて行ってくれました。彼の仕上げが見栄え良い素晴らしいフェンスを見、季節早々の早生まれのラムたちを眺めました。

◆昨晩はセント・ジョーンズ・クラブでフィッシュ・アンド・チップスを楽しみました。土曜日にファンガパラオアへ。

2024・8・4(日)

◆昨日はファンガヌイからファンガパラオアまでの素晴らしいドライブで、今は家にくつろいでいます。今日は曇りで涼しいですが、昨日のドラ



イヴ前半は本当に素晴らしく雄大な景色で、島中央部のルアペフ山とンガウルホエ山頂上は雪が覆い壮観でした。国立公園での写真からおわかりでしょう。

2024・8・26(火)

北海道旅行プラン

◆皆様がお変わりありませんように。厳しい暑さも少しは和らぎ始めているでしょうか。ここ

ニュージーランドでは春の兆しが見え始めましたが、朝晩はまだ涼しいです。庭のスモモに最初の花々が咲き始め、シェークスピア・パークの放牧場でラムたちは元気に育っています。

◆今年の春先には北見で皆さんや友人方にお会いでき、素晴らしかったです。温かいおもてなしを感謝しています。

◆10月にはまた北海道旅行ができるのが楽しみです。国際便の予約をしました。

◆10月18日金曜日・千歳空港着。帰途は12月1日・日曜日発ニュージーランドへ。

◆その間、北見へ、札幌発10月28日・月曜日。そして、11月4日・月曜日に札幌へ。お会いする機会があれば良いのですが。

2024・9・20(金)

ファンガヌイから

こんにちは

◆おかわりありませんか。多分、気温はもう涼しくなっているかと。

◆先週火曜日(10日)にファンガヌイまで南下し、明日はファンガパラオアへ戻ります。天候はずっと雨で涼しかったけれど快適な滞在でした。目的の、リンゴの木の虫除け対策を講じた

ので効果が出てくれると良いのですが。リンゴはまだ花が見えないけれど、梨の木は満開です。今朝見回りに行った時、蜂たちが飛び回っていることに気がきました。

◆最近の雨で池は満水。先日はカエルが鳴いていました。ファンガヌイでは桜が満開です。シテイセクターの郡役所前、桜の樹々(写真)が見事な眺めです。◆来月末の北見訪問を楽しみにしています。北見の友人方によるしくお伝えください。

グラハム・ハード



瞳ふぁっしゅん・瞳けあ

めがねのよっしー

代表 岩井 敏 忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯. 090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時

編集後記

8月・9月と、ピアソン邸所縁の方々が数多く来館されました。嬉しい忙しさでした。この便りでもご紹介させていただきましたが、紙面をもっと確保できればとの思いでまとめてみました。

爽りの秋と言いますが、今年はピアソンの庭で、不思議な実りを発見しました。オニグルミ、ヤマナシ、栗の実、木苺、初夏のすももなど、ピアソン夫妻在住の頃から記録にあるものは、今までこの便りでも紹介してきましたが、言い伝えにある「りんご」の果実だけは確認できず、木もないものと思っていたのですが、今回見つけたのです。ピアソン会がこの記念館を管理するようになって21年になりますが、初めてのことで、木は、老木と言ってもいいような状態ですので、何故今まで実をつけなかったのか?何故今年実をつけたのか?不思議です。今後は、そっと見守りたいと思っています。一口食してみました。結構甘みがありました。報告まで!

北海道庁の赤煉瓦庁舎(リニューアル工事中)に、北海道遺産を紹介する展示場ができますが、その展示スペースにピアソン記念館のミニチュアを展示する計画が進行中です。来春オープン予定!

(副理事長兼事務局長) 伊藤 悟